

D 181 “ねまき、ふとん”と柄嗜好 — 在宅ねたきり老人の生活実態(その4) —
和洋女子短大 ○我妻美奈子 桐生短大 伊藤秀三郎 立正大文
三友雅夫

目的 本研究は、在宅の要介護(ねたきり)老人の“ねまき、ふとん”の着、使用実態と“柄”に対する嗜好を明らかにすることを目的とした。日常生活のなかで、心地よさ、快適さ、心の安らぎなどの衣生活、寝具生活に及ぼす要因には、布地の種類、肌ざわり、重さ、軽さ、保温性、通気性、着やすさ(使いやすさ)などに限られず、布地の色や柄もまた一つの要因と考えられる。殊に、ねたきり老人にとって、“ねまき、ふとん”は、在宅の療養生活の明・暗、心の安らぎ、生きる意欲に強いインパクトを与えると考えられる。前回の報告(その3)では、特に色彩嗜好に中心を置いて報告したが、今回は“ねまき、ふとん”の着用(使用)の実態と柄に対する嗜好に論点をしぼって分析し報告したい。

方法 データ収集、統計処理については、前回報告(1~3)と同様である。調査は、質問紙法、面接調査法により、昭和61年4月~5月の3週間にわたって実施した。回収票は475票であった。統計処理は、コンピューター(FACOM ANALYST V10/L20A)によった。集計票は398票であった。二次クロス(性別及び年齢別)集計の方法をとった。

結果 調査項目83の全項目にわたる単純集計データの分析結果は、「在宅ねたきり老人の生活実態」のテーマによる報告「日本家政学会、東北・北海道支部、第32回総合研究発表会、講演要旨及びその発表時に配布した報告資料(タイプ印刷)」に示した。

本報告では、1)着用ねまきの分析(前回報告の要旨)、2)使用ふとんの分析、3)柄の嗜好(好きな柄、嫌いな柄)について分析、この三項について報告する。分析結果、及びその考察については、研究発表時に、二次クロスデータ(統計事実)を示し発表する。